

2023年度

東京藝術大学音楽学部・別科入学者選抜試験 試験内容及び課題曲

(この冊子は表紙を含め全49ページ)

※発表した課題曲の内容等についての電話等による問い合わせには応じない。
 ※本冊子記載事項に訂正があった場合は、その都度本学ホームページで発表する。

声種・楽器等の略記について

本学では、下記のとおり声種・楽器名を略記することがあるので、参考までに記載する。

【 略 記 一 覧 】

専攻・声種・楽器名		略記	専攻・声種・楽器名		略記			
作	曲	/						
声 楽	ソ プ ラ ノ	S	器 楽	金 管	ホ ル ン	Hr		
	ア ル ト	A			ト ラ ン ペ ッ ト	Tp		
	テ ノ ー ル	T			テ ナ ー ・ ト ロ ン ボ ー ン	TTb		
	バ ス	B			バ ス ・ ト ロ ン ボ ー ン	BTb		
					ユ ー フ ォ ニ ア ム	Euph		
		チ ュ ー バ			Tu			
器 楽	ピ ア ノ	Pf		打 楽 器		Pc		
	オ ル ガ ン	Org						
	弦 楽	ヴ ァ イ オ リ ン			Vn	古 楽	バ ロ ッ ク 声 楽	BVo
		ヴ ァ イ オ ラ			Va		バ ロ ッ ク ヴ ァ イ オ リ ン	BVn
		チ ェ ロ	Vc		バ ロ ッ ク チ ェ ロ		BVc	
		コ ン ト ラ バ ス	Cb		リ コ ー ダ ー		Rec	
		ハ ー プ	Hp	チ ェ ン バ ロ	Cemb			
			バ ロ ッ ク オ ル ガ ン	BOrg				
	木 管	フ ル ー ト	Fl	フ ォ ル テ ピ ア ノ	FP			
		オ ー ボ エ	Ob					
ク ラ リ ネット		Cl	指 揮	/				
フ ァ ゴ ッ ト		Fg	邦 楽	/				
		Sx	楽 理	/				
			音 楽 環 境 創 造	/				
○略記の表現について 1. 原則として、2字以内にまとめた。 2. 科目名等は、日本語のままとし、声種・楽器名を略記の対象とした。								

「2023年度学部・別科 学生募集要項」の公表について

1. **公表時期** 2022年12月上旬
2. **公表方法** 本学入試情報サイト (<https://admissions.geidai.ac.jp/>) 上で公表する。

音楽学部

試験内容及び試験曲

ア 専攻実技等

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
作曲	◎作曲科共通注意事項 第1回, 第2回試験は共通試験となるが, 第3回試験は専攻によって(作曲専攻, エクリチュール専攻)試験内容が異なるので注意すること。	
	作曲 エクリチュール	第一回 与えられたバス及びソプラノの声部により, それぞれ4声体の和声を作る。(各3時間)
		第二回 (1) 厳格対位法: 与えられた定旋律による3声華麗対位法と混合類各1題を作る。(3時間) (2) 与えられたコラール旋律により, バッハ様式で4声コラール1題を作る。(2時間)(計5時間)
		第三回 <作曲専攻> 与えられた主題, 指定された形式(*), 編成により楽曲を完成する。 なお楽器編成は下記から指定する。 フルート, オーボエ, クラリネット, ファゴット, ホルン, ヴァイオリン, ヴィオラ, チェロ, ピアノ (8時間。ただし, 途中昼食休憩の1時間を別に設ける。) *変奏曲, ロンド, ソナタ等の形式 ※形式及び楽器編成については当日指定する。 <エクリチュール専攻> (1) 総譜初見視奏と移調奏 (2) ピアノによる数字付き低音の和声付け (3) 楽器奏者の演奏する旋律課題のピアノ伴奏付け

【例題】

1. 厳格対位法

1. 次の定旋律(バス譜表)上に, テノール, アルト, ソプラノいずれかの音部記号を用いて移勢と4分音符による3声の混合類を作成せよ。
 それぞれの対旋律をどの声部に置くかは自由。
 尚, 定旋律の他声部への置き換えはしない。移調または移旋はおこなわないものとする。



2. 次の定旋律(ソプラノ譜表)を高声部として, 3声の華麗対位法を作成せよ。

尚, 対旋律は, バス, テノール, アルトのいずれかの音部記号を用いること。
 定旋律の他声部への置き換えはしない。移調または移旋はおこなわないものとする。



2. コラール

次のコラール旋律をバス, テノール, アルト記号を用いて, 四声体で作成せよ。

Choral





科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
声	ソプラノ (S)	B. 外国曲・ドイツ 16. Beethoven, L.v Ich liebe dich so wie du mich WoO 123 17. Brahms, J. Dein blaues Auge Op. 59-8 18. Mendelssohn, F. B. Auf Flügeln des Gesanges Op. 34-2 19. Mozart, W. A. An Chloe KV 524 20. Mozart, W. A. Das Veilchen KV 476 21. Schubert, F. An die Musik Op. 88-4 22. Schubert, F. Frühlingsglaube Op. 20-2 23. Schumann, R. Die Lotosblume Op. 25-7 24. Schumann, R. Die Lotosblume Op. 25-24 25. Wolf, H. Verborgtheit Mörike-Lieder 12.
	アルト (メゾソプラノを含む) (A) テノール (T) バス (バリトンを含む) (B)	B. 外国曲・フランス 26. Berlioz, H Villanelle 27. Debussy, C. Beau soir 28. Debussy, C. Nuit d'étoiles 29. Fauré, G. Clair de lune 30. Fauré, G. Ici-bas ! 31. Fauré, G. Lydia 32. Fauré, G. Mai 33. Fauré, G. Notre amour 34. Gounod, Ch. Chanson de printemps (第1節, 第3節のみ) 35. Hahn, R. Si mes vers avaient des ailes
楽		(次ページに続く)

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
声		<p>声楽科志願者に対する注意事項</p> <p>1. 試験内容及び試験曲について</p> <p>(1) 第1回A. およびB. の課題選択曲ともいずれの調で演奏しても良い。B. 外国曲の課題選択曲は原語歌詞により演奏すること。 第2回自由曲は、歌曲（および一般に歌曲として扱われている古典アリアを含む）の場合、いずれの調で演奏しても良いが、オペラおよびオラトリオ等のアリアは原調で演奏すること（ただし、オペラのアリアで慣習的に移調が認められている場合を除く）。</p> <p>(2) 志願者の演奏に与えられる時間は、次のとおりである。 第1回試験 2曲合わせて4分以内 第2回試験 4分以内</p> <p>試験官の指示により演奏の途中で切ることがあるが、志願者の評価に不利になるものではない。</p> <p>(3) 伴奏楽器はピアノとし、楽器および伴奏者は本学で用意する。志願者が試験時に伴奏者を同伴することは認めない。</p> <p>(4) 志願者は、出願時に提出する「<u>受験曲目提出用紙</u>」の写し（コピー）を、<u>試験当日持参すること</u>。</p> <p>(5) 男性で、ソプラノまたはアルトの音域を演奏する志願者は、それぞれ該当する専攻（声種）に出願すること。</p> <p>2. 楽譜について</p> <p>(1) 志願者は、選択した第1回課題選択曲および第2回自由曲のピアノ伴奏用の楽譜を、出願時に提出すること。伴奏者は提出された楽譜を使用するので、調性等に誤りがないか確認し、(2)によく留意して体裁を整えること。楽譜提出後の曲目、調性等の変更は一切認めない。</p> <p>(2) 提出する楽譜は、次の要領により整えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜の大きさは、1ページA4縦とする。 ・ 楽譜には声部に加え、ピアノ伴奏部と歌詞が記載されていること。手書きの場合には、黒のペンまたはボールペンで清書すること。 ・ 楽譜は1冊に合本せず1曲ごとに製本し、1頁目のウラにA4サイズの画用紙程度の厚さの表紙をつけ、必要事項を記入した「提出楽譜表紙貼付票（出願時提出書類に綴じ込み）」を表紙の上端に貼付すること。 ・ 楽譜は伴奏者が見やすく、めくりやすくするために折本仕立て（下図参照）にして、各頁を全開できるように製本すること。 <p style="text-align: center;">(4頁の楽譜の場合)</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">----- 楽譜のつなぎ目をテープ等で貼る ----- 1頁目ウラに表紙をつける</p> </div> <p>(3) 楽譜の提出に当たっては、当該楽譜のみ「音楽学部声楽科伴奏楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に「書留速達郵便」により郵送すること。封筒裏面に志願者の氏名、声種および整理番号（登録情報確認書の右下に記載されている番号）を必ず記入すること。この封筒内に、伴奏楽譜以外の必要書類を絶対に同封しないこと。同封した場合には、受験できないことがある。</p>
楽		







科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲	
器	鍵		第一回	<p>a) Beethoven：ピアノソナタより任意の1曲を選択し提出する。 b) Chopin：練習曲 Op.10 及び Op.25 より任意の2曲を選択し提出する。</p> <p>※ a) については、第1楽章を演奏する。ただし、次の作品については、第1楽章と第2楽章を演奏する。Op.27-1, Op.27-2, Op.101, Op.109 b) については、当日各自の抽選により1曲を演奏する。</p> <p>I) 演奏は、すべて暗譜とする。 II) 8小節までの繰り返しは自由とする。それ以外の繰り返しは省略する。 III) 当日、時間の都合により一部を省略させる事がある。 IV) 曲順は、各自の自由とする。</p>
	盤 楽 器	ピ ア ノ (P f)	第二回	<p>a) Beethoven：第1回で選択したピアノソナタより、第1回で演奏しなかった楽章（第2楽章以降）を演奏する。ただし次の作品については、第3楽章以降を演奏する。 Op.27-1, Op.27-2, Op.101, Op.109 b) 下記の作曲家群から1曲以上を選択する。ただし演奏時間は10分以上とする。 Schubert, Weber, Mendelssohn, Chopin, Schumann, Liszt, Brahms ただし、Chopin は練習曲以外の作品を演奏すること。 c) 下記の作曲家群から1曲以上を選択する。 Fauré, Debussy, Ravel, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartók ただし、Debussy, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartók については、練習曲以外の作品を演奏すること。 ※ b) と c) を合わせて15分以上になるように、プログラムを組むこと。</p> <p>I) 演奏は、すべて暗譜とする。 II) 本年度は追加の課題曲は課さない。 III) 8小節までの繰り返しは自由とする。それ以外の繰り返しは省略する。 IV) b), c) については、ソナタ・組曲からの楽章の抜粋は可。変奏曲の抜粋は認めない。 V) 当日、時間の都合により一部を省略させる事がある。 VI) 曲順は、a), b), c) の順とする。</p>


科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲																																																																											
器 楽 器	鍵 盤 楽 器	<p>専攻実技試験で使用するオルガンの仕様</p> <table border="0"> <tr> <td>Pedal (C-f)</td> <td>13. Krummhorn</td> <td>8'</td> <td>26. Nasard</td> <td>2⅓'</td> </tr> <tr> <td>1. Subbass</td> <td>16'</td> <td>14. Tremulant</td> <td>27. Superoktav</td> <td>2'</td> </tr> <tr> <td>2. Principalbass</td> <td>8'</td> <td>15. I/P</td> <td>28. Mixtur</td> <td>4f</td> </tr> <tr> <td>3. Rohrpommer</td> <td>8'</td> <td>16. II/P</td> <td>29. Trompete</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>4. Choralflöte</td> <td>4'</td> <td>17. III/P</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. Piffaro</td> <td>2f</td> <td>18. III/I</td> <td>(Ⅲ) Schwellwerk (C-g³)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. Dulcian</td> <td>16'</td> <td>19. I/II</td> <td>30. Rohrflöte</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>20. III/II</td> <td>31. Salicional</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>(I) Brustwerk (C-g³)</td> <td></td> <td></td> <td>32. Vox coelestis</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>7. Holzgedackt</td> <td>8'</td> <td>(Ⅱ) Hauptwerk (C-g³)</td> <td>33. Principal</td> <td>4'</td> </tr> <tr> <td>8. Spillpfeife</td> <td>4'</td> <td>21. Quintade</td> <td>34. Blockflöte</td> <td>2'</td> </tr> <tr> <td>9. Principal</td> <td>2'</td> <td>22. Principal</td> <td>35. Sesquialtera</td> <td>2f</td> </tr> <tr> <td>10. Terz</td> <td>1⅓'</td> <td>23. Gemshorn</td> <td>36. Scharff</td> <td>3f</td> </tr> <tr> <td>11. Oktav</td> <td>1'</td> <td>24. Oktav</td> <td>37. Hautbois</td> <td>8'</td> </tr> <tr> <td>12. Cymbel</td> <td>3f</td> <td>25. Holztraverse</td> <td>38. Tremulant</td> <td></td> </tr> </table> <p>[演奏補助装置] Handregister + 2 Freie Kombinationen, Zungen ab, Mixtur ab (Klais 社製)</p>	Pedal (C-f)	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2⅓'	1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'	2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f	3. Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'	4. Choralflöte	4'	17. III/P			5. Piffaro	2f	18. III/I	(Ⅲ) Schwellwerk (C-g ³)		6. Dulcian	16'	19. I/II	30. Rohrflöte	8'			20. III/II	31. Salicional	8'	(I) Brustwerk (C-g ³)			32. Vox coelestis	8'	7. Holzgedackt	8'	(Ⅱ) Hauptwerk (C-g ³)	33. Principal	4'	8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	34. Blockflöte	2'	9. Principal	2'	22. Principal	35. Sesquialtera	2f	10. Terz	1⅓'	23. Gemshorn	36. Scharff	3f	11. Oktav	1'	24. Oktav	37. Hautbois	8'	12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	38. Tremulant	
		Pedal (C-f)	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2⅓'																																																																							
		1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'																																																																							
		2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f																																																																							
3. Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'																																																																									
4. Choralflöte	4'	17. III/P																																																																											
5. Piffaro	2f	18. III/I	(Ⅲ) Schwellwerk (C-g ³)																																																																										
6. Dulcian	16'	19. I/II	30. Rohrflöte	8'																																																																									
		20. III/II	31. Salicional	8'																																																																									
(I) Brustwerk (C-g ³)			32. Vox coelestis	8'																																																																									
7. Holzgedackt	8'	(Ⅱ) Hauptwerk (C-g ³)	33. Principal	4'																																																																									
8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	34. Blockflöte	2'																																																																									
9. Principal	2'	22. Principal	35. Sesquialtera	2f																																																																									
10. Terz	1⅓'	23. Gemshorn	36. Scharff	3f																																																																									
11. Oktav	1'	24. Oktav	37. Hautbois	8'																																																																									
12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	38. Tremulant																																																																										
第一回	<p>(A) J. S. Bach “Orgelbüchlein”より次の曲から当日指定する。 BWV599, BWV604, BWV608, BWV612, BWV613, BWV619, BWV621, BWV622, BWV627, BWV629, BWV633, BWV635, BWV637, BWV640, BWV642</p> <p>(B) D. Buxtehude : Praeludium in g, BuxWV 149</p>																																																																												
第二回	<p>(A) J. S. Bach : Präludium und Fuge in G, BWV 550</p> <p>(B) F. Mendelssohn-Bartholdy : Sonate No.2 c-moll 全楽章</p>																																																																												
<p>(注1) 第一回(B)の D. Buxtehude : Praeludium in g, BuxWV 149 は暗譜演奏とする。</p> <p>(注2) 当日、時間の都合により一部を省略させることがある</p> <p>(注3) 各課題曲のレジストレーションについては、レジスタータイムに標準的なものを大学側が示すので、適宜参考にしてもよい。</p>																																																																													

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲	
器楽	弦	ヴァイオリン (Vn)	<p>(A) 音階 カール・フレッシュ：スケール・システム (Carl Flesch : Scale System) よりニ短調 (d-moll) で、次のイ、ロ、ハ、ニ、ホ、への各種を下記に参照し、譜例の通り演奏すること。 (イ)音階、分散和音、分散3度、半音階 (ロ)3度の重音 (ハ)6度の重音 (ニ)8度の重音 (ホ)フィンガード・オクターヴ (へ)10度の重音 ※すべてレガートとし、スラーは譜例に従うこと。フィンガリングは自由とする。</p> <p>(イ) </p> <p>(ロ) </p> <p>(ハ) </p> <p>(ニ) </p> <p>(ホ) </p> <p>(へ) </p> <p>(B) N.Paganini:24 のカプリース Op.1 から 第11番ハ長調、第17番変ホ長調の2曲から任意の1曲を選択すること。 ※第17番のオクターヴ部分の繰り返しはなし。 (注)演奏は(A)(B)の順とする。すべて暗譜とし、使用する楽譜の版は特に指定しない。時間の都合により一部を省略させることがある。</p>
	ヴァイオリン (Vn)	第一回	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲	
器	弦	ヴァイオリン (Va)	<p>(A) 音階 音階 Carl Flesch : Scale System (ヴァイオリン用に編曲された版〈Carl Fischer 版〉より) ホ長調 (E-dur) で、次のイ、ロ、ハ、ニの各種を下記を参照し、演奏すること。 (イ) 音階、分散和音、分散3度、半音階 (ロ) 3度の重音 (ハ) 6度の重音 (ニ) 8度の重音</p> <p>♩=108以下</p> <p>(イ) </p> <p>♩=40以下</p> <p>(ロ) </p> <p>♩=40以下</p> <p>(ハ) </p> <p>♩=40以下</p> <p>(ニ) </p> <p>※すべてレガートとし、リズムやスラーはハ長調 (C-dur) に準ずる。なお、重音のスラーは1拍ずつのスラーとする。フィンガリングはすべて自由とする。</p> <p>(次ページに続く)</p>
			第一回




科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲	
器	弦		第一回	<p>(B) Palaschko : 20 Studies Op.36 より No.2 Allegro con spirito ※使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(C) J.S.Bach : 無伴奏チェロ組曲第2番ニ短調 (d-moll) BWV1008 ヴィオラ用に編曲された版より Allemande ※繰り返しは無しとし、使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A)(B)(C)の順とする。</p>
楽	楽	ヴィオラ (Va)	第二回	<p>(A) Campagnoli : 41 Caprices Op.22 より No.17 (e-moll) 最初から Var.3 まで。Var.4 は省略。 ※繰り返しは無しとし、使用する楽譜の版は特に指定しない。</p> <p>(B) C.Stamitz : Viola concerto No.1 ニ長調 (D-dur) より 第1楽章 Allegro (カデンツァは無し) ※Henle 版を使用すること。</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 (B)はピアノ伴奏付きで演奏する。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A)(B)の順とする。</p>


科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
器	弦	<p>(A) 音階 J.Loeb : Gammes et arpèges~Billaudot 版より ニ長調(D major) 譜例参照のこと</p> <p>D major</p> <p>♩=100前後</p> <p>(イ) </p> <p>(ロ) </p>
	チ エ (Vc) 口	<p>第一回</p> <p>(注)テンポは自由</p> <p>(ハ) </p> <p>(ニ) </p> <p>(ホ) </p> <p>(へ) </p> <p>(B) Duport: 21 の練習曲より任意の 1 曲 ※ただし、no.3 (C major)、no.5 (c minor)、no.7(g minor)、 no.19(B major)を除く ※使用する楽譜の版は特に指定しない</p> <p>(注) すべて暗譜とし、繰り返しはなしとする。 時間の都合により一部省略させることがある。 演奏は(A)(B)の順とする。 (次ページに続く)</p>
楽		

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
器	弦	<p>(A) 音階ニ短調 (d-moll) ※指定されたスラーを厳守すること。フィンガリングは自由。</p> <p>d-moll</p> <p>♩=52-60</p>  <p>第一回</p>
	コントラバス (C b)	 <p>(B) F.Simandl : New Method for The Double Bass Book II (Carl Fischer 版)より Division VII Etude I Allegro Moderato (Es dur)</p> <p>(C) F.Schubert : Quintet Op.114 第4 楽章より第3, 4 変奏曲の 一部 ※F.Simandl の New Method for the Double Bass Book I (Carl Fischer 版) の 129 頁を使用すること。</p> <p>(注) 全て暗譜で演奏すること。フィンガリングは自由。 楽器の貸与はしない。時間の都合により一部を省略させる ことがある。</p> <p>(次ページに続く)</p>
楽	楽	



科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲	
器	弦	コントラバス (C b)	第二回	<p>(A) J.S.Bach 無伴奏チェロ組曲第5番より Sarabande ※PETERS版(S.Sterling編)を使用すること。 ※繰り返しはなし。 ※アーティキュレーション、ボーイング、フィンガリングは自由。</p> <p>(B) G.B.Cimador : Concerto in G major 第1楽章 Allegro ※Yorke Editionを使用すること。 ※ピアノ伴奏付きで演奏すること。(伴奏者は本学で用意する。 伴奏者の同伴は認めない。伴奏合わせは試験直前に行う。)</p> <p>(注)全て暗譜で演奏すること。楽器の貸与はしない。 時間の都合により一部を省略させることがある。</p>
	楽	楽	ハ ー プ (H p)	第一回
第二回		<p>V. Mortari : Sonatina prodigio per arpa</p> <p>(注) すべて暗譜とする。 時間の都合により一部を省略させることがある。</p>		

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲
器	管	木	<p>◎フルート注意事項 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※暗譜の指定がないものは、楽譜を使用してもよい。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>フルート (F I)</p> <p>第一回</p> <p>(1) 音階 下記の例を参考にして、当日指定によりスラーまたはスタッカートで演奏すること。演奏する調は当日指定する。短調では旋律短音階を演奏する。暗譜で演奏すること。 (例) </p> <p>(2) A.B.Fürstenuau : 24 Etüden für Flöte より No.19, No.22 より当日指定する。</p> <p>(3) KARG-ELERT : 30 STUDIES op.107 より No.9, No.11 より当日指定する。</p> <p>第二回</p> <p>(1) 尾高尚忠 : フルート協奏曲 op.30b 第1楽章と第2楽章の冒頭から52小節目まで。 暗譜で演奏すること。試験ではピアノ伴奏をつける。 ピアノ伴奏者は本学において用意する。</p> <p>(2) 次の a) ~ g) の中より任意の1曲を演奏すること。 a) L. Berio : Sequenza I b) E. Bozza : Image c) C. Halffter : Debra (6分以内にカットすること) d) P. Hindemith : 8 Stücke より 1, 2, 3, 5, 6, 8 e) 一柳慧 : 忘れえぬ記憶の中に f) S. Karg-Elert : Sonata "Appassionata" g) I. Yun : Etüden für Flöte(n) solo より Nr. 5</p>
			打



科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲	
器	管	木	<p>◎クラリネット注意事項</p> <p>※出版社の指定のないものは、何版にても可。</p> <p>※暗譜の指定のないものは、楽譜を使用してもよい。</p> <p>※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>※反復記号、D. S., D. C.などによるリピートは省略すること。</p> <p>※すべての課題をB♭管のソプラノクラリネットで演奏すること。</p>	
			第一回	<p>(1) 音階および分散和音 下記の例を参考にして、いずれも当日指定によりスラーまたはスタッカートで演奏すること。演奏する調は当日指定する。短調では旋律短音階を演奏する。暗譜で演奏すること。</p> <p>(音階例)</p>  <p>(分散和音例)</p>  <p>(2) C. Rose : 32 Etudes No. 14, 18, 21, 23, 27, 28, 29, 30, 31, 32 (Alphonse Leduc 版)</p> <p>(3) E. Cavallini : 30 Capricci No. 14, 16, 22, 29 (Ricordi 版)</p> <p>(注) (2)(3)とも演奏箇所は当日指定する。</p>
			第二回	<p>(1) C. M. v. Weber : Concertino Op. 26 (カデンツァを含めない) 暗譜で演奏すること。試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学において用意する。ピアノ伴奏は7小節目から演奏を始め、112~124小節の間奏部分はカットする。出版社の指定はないが、演奏する小節数はBreitkopf版に準ずるものとする。</p> <p>(2) a) F. Héau : 30 études d'après J.-S. Bach volume 2 (Gérard Billaudot 版) より No. 15. Adagio b) G. Donizetti : Studie 冒頭から 67 小節目まで c) U. Delécluse : Quatorze Grandes Études (Alphonse Leduc 版) より No. 12 上記 a), b), c) から、ひとつを選んで演奏すること。</p>
			楽	管
楽	打	管	<p>第一回</p> <p>(1) 音階 下記の例を参考にして、当日指定によりスラーまたはスタッカートで演奏すること。演奏する調は当日指定する。短調では旋律短音階を演奏する。暗譜で演奏すること。</p> <p>(例)</p>  <p>(2) J. Weissenborn : Studies for Bassoon Op. 8 Vol. II (何版にても可) No.1~No.21 の中から当日指定する。 繰り返しなしで演奏すること。</p>	
			<p>第二回</p> <p>(1) K. Stamitz : Konzert F-dur für Fagott und Orchester 第1楽章 (Sikorski 版) カデンツァあり 暗譜で演奏すること。試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学において用意する。</p> <p>(2) J. Weissenborn : Studies for Bassoon Op. 8 Vol. II (何版にても可) No.22~No.43 より任意の1曲を演奏すること。</p>	

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲
器	管	木	<p>◎サクソフーン注意事項 ※暗譜の指定がないものは、楽譜を使用してもよい。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 下記の例を参考にして音域内で、当日指定によりスラーまたはスタッカートで演奏すること。演奏する調は当日指定する。短調では和声短音階を演奏する。暗譜で演奏すること。 (例)</p>  <p>(2) Ferling : 48 etudes (Leduc 版) No.1, 2, 4, 5, 6, 8, 9, 14, 17, 18, 22, 26, 27, 29, 30, 31, 32, 36, 40, 41, 49, 50, 53, 58 より当日指定する。</p> <p>(3) P. Creston : Sonata 第1楽章 (Shawnee 版)</p>
	打	サクソフーン (S x)	<p>第一回</p> <p>(1) A. Glazounov et A. Petiot : Concerto en mi bémol (Leduc 版) より練習番号 1 から 16 まで暗譜で演奏すること。試験ではピアノ伴奏をつける。 ピアノ伴奏者は本学において用意する。</p> <p>(2) a) P. Bonneau : Caprice en forme de Valse (Leduc 版) b) P. Creston : Sonata 第3楽章 (Shawnee 版) c) A. Désenclos : Prélude, Cadence et Finale より Prélude, Cadence (Leduc 版) d) J. Ibert : Concertino da Camera 第2楽章 28 Animato molto から終わりまで (Leduc 版) e) R. Boutry : Divertimento 第2, 3楽章 (Leduc 版) f) J. Rueff : Sonate 第1楽章 (Leduc 版) 上記 a) ~ f) の中から、ひとつを選んで演奏すること。</p> <p>第二回</p> <p>(3) 初見視奏</p>
楽	管		
	打		

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲
器	管	金	<p>◎ホルン注意事項 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。 ※暗譜の指定がないものは、楽譜を使用してもよい。</p>
	打	ホ ル ン (H r)	<p>(1) 音階 全ての調（長調・スラー有または無）の中から当日指定する。但し、下記のリズムパターンで演奏すること。楽譜は使用して良い。 (例)</p>  <p>音階の音域は次の範囲とする。</p>  <p>(2) C. Kopprasch : Sixty Selected Studies for French Horn, book 1, 2 (Carl Fischer 版に限る) より A) 8, 15, 21 より演奏箇所は当日指定する。暗譜で演奏すること。 B) 6, 9, 12, 13, 18, 19, 22, 25, 28, 37, 48 より演奏箇所は当日指定する。楽譜を使用してもよい。 注) 全て in F で演奏。リピートなし。</p> <p>(3) Georges Barbotteu : 5 Pieces Poetiques en Fa (Editions Choudens) より I . II . V の中から演奏箇所は当日指定する。楽譜を使用してもよい。</p>
	楽	楽 管	<p>第二回</p> <p>(1) W. A. Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr. 4 Es-Dur K.495 (版指定なし) より 第1楽章 (カデンツァなし) 楽譜を使用してもよい。演奏箇所は当日指定する。 試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学において用意する。</p> <p>(2) 初見視奏</p>

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲
器	管	金	<p>◎トランペット注意事項 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>第一回</p> <p>※当日試験室に用意された楽譜を使用して演奏すること。 (1) Arban : Complete Grand Method (全音楽譜出版社版) より 長音階 P.65~P.80, 短音階 P.81 第 70~81 番まで 上記の中より当日指定する。 (注) 長音階第 16, 22, 28, 34, 41, 50, 56, 62, 68, 69 番は 除く。 (2) C. Kopprasch : 60 Etudes for Trumpet (全音楽譜出版社版) (P.7~P.33) 第 10 番~第 44 番の中より当日指定する。 (3) Théo Charlier : Trente-six Etudes Transcendantes Pour Trompette, Cornet à Pistons ou Bugle Si ♭ Nouvelle édition (Leduc 版) No.1, 2, 4, 5 より 当日指定する。</p>
	打	トランペット (Tp)	<p>第二回</p> <p>(1) Eugène Bozza : RUSTIQUES (Leduc 版) Leduc 版の B♭ 管トランペット用パート譜 (Cornet ou Trompette Si ♭) のうち、以下の 2 か所をそれぞれ指示どおりに演奏すること。 ・ 3 ページ上から 6 段目</p>  <p>※ピアノ伴奏譜, C 管用パート譜に記載の ossia のとおりに演奏する。 ・ 3 ページ下から 2 段目の 5 小節目</p> <p>Tempo 1^o</p>  <p>※C 管用パート譜に準じ、記譜 G# (実音 F#) ではなく記譜 G♯ (実音 F♯) を演奏する。</p> <p>(2) 初見視奏 (注) B♭ 管トランペットを使用すること。</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲	
器	管	<p>◎テナー・トロンボーン, バス・トロンボーン注意事項 ※時間の都合により, 演奏を途中でカットする場合がある。 ※暗譜を指定されたもの以外は, 当日試験室に用意された楽譜を使用して演奏すること。</p>	
		テナー・トロンボーン (T T b)	<p>第一回</p> <p>(1) 音階 全ての調 (長調, 短調「自然, 和声, 旋律」) の中から当日指定する。 但し, 下記のリズムパターンで演奏すること。暗譜で演奏のこと。 (例) </p> <p>(2) E. Remington : Warm-Up Exercises for Trombone (Accura Music 版) より 下記の部分  第7ポジションまで演奏のこと。 (注) 暗譜で演奏のこと。</p> <p>(3) Brad Edwards (著, 出版) : 「Lip Slur Melodies」 A melodic approach to building tone and technique with lip slurs より P.8 の No.1.15, 1.16</p> <p>(4) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) No.19, 20, 25, 27, 33, 34, 37, 41, 46, 49 (注) (3)(4)の演奏箇所は当日指定する。リピートは不要。</p>
		打	<p>第二回</p> <p>F. DAVID : Concertino in E\flat, op.4 (Zimmermann 版) より 第1, 第2楽章 (注) 暗譜とする。演奏箇所は当日指定する。 試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学にて用意する。</p>
		楽	<p>管</p> <p>バス・トロンボーン (B T b)</p> <p>第一回</p> <p>(1) 音階 全ての調 (長調, 短調「自然, 和声, 旋律」) の中から当日指定する。 但し, 下記のリズムパターンで演奏すること。暗譜で演奏のこと。 (例) </p> <p>(2) E. Remington : Warm-Up Exercises for Trombone (Accura Music 版) より 下記の部分  第7ポジションまで演奏のこと。 (注) 暗譜で演奏のこと。</p> <p>(3) Brad Edwards (著, 出版) : 「Lip Slur Melodies」 A melodic approach to building tone and technique with lip slurs より P.8 の No.1.15, 1.16</p> <p>(4) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) より No.(16), 18, (19), 25, (33), 39, (41), (51), (52), 58 (注) (3)(4)の演奏箇所は当日指定する。 (4)の () の曲は1オクターブ下げて演奏すること。他は記譜通り。 リピートは不要。</p> <p>第二回</p> <p>F. DAVID : Concerto (Concertino) in B\flat for Bass Trombone (Zimmermann 版) より第1, 第2楽章 (注) 暗譜とする。演奏箇所は当日指定する。 試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学にて用意する。</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
器	管金	<p>ユーフォニアム (Euph)</p> <p>◎ユーフォニアム注意事項 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。 ※暗譜を指定されたもの以外は、当日試験室に用意された楽譜を使用して演奏すること。</p> <p>第一回</p> <p>(1) 音階 全ての調(長調, 短調「自然, 和声, 旋律」)の中から当日指定する。 但し、下記のリズムパターンで演奏すること。暗譜で演奏のこと。 (例) </p> <p>(2) E. Remington : Warm-Up Exercises for Trombone (Accura Music 版) より 下記の部分 </p> <p>(注) 暗譜で演奏のこと。トロンボーン演奏に準ずる。</p> <p>(3) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) No.10~No.39 (No.34 は除く) より、当日指定する。 リピートは不要。</p> <p>第二回</p> <p>P. V. De la Nux : Solo de Concours pour Trombone et piano (Leduc 版), Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (Southern music company 版) どちらの版でもよい。 (注) 暗譜とする。カデンツァは記譜通りの音で演奏すること。 試験ではピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は本学にて用意する。</p>
		楽

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
器	管	
	打楽器 (Pc)	<p style="text-align: center;">第二回</p> <p>小太鼓</p> <p>(1) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm (Belwin-Mills 版) No.3, 14, 15, 20, 29, 35 の中より当日指定する。</p> <p>(2) 鍵盤打楽器で音階 2 オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。-Dolce, Staccato 等, 表情をつけて) (例)</p>  <p>(3) 三善晃 : 会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ)</p> <p>マリンバ</p> <p>(1) 自由曲</p> <p>(2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music 版, 又は Ludwig Masters 版) P.4~P.11 の中から当日指定する。 <u>(注) 小太鼓は, 各自持参すること。</u></p> <p>ティンパニ</p> <p>(1) E. Carter : EIGHT PIECES for Four Timpani (Associated Music Publishers 版) 「I. Saëta」「VII. Canaries」より当日指定する。</p> <p>(2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music 版, 又は Ludwig Masters 版) P.4~P.11 の中から当日指定する。 <u>(注) 小太鼓は, 各自持参すること。</u></p> <p>(3) 鍵盤打楽器で音階 2 オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。-Dolce, Staccato 等, 表情をつけて)(小太鼓の(2)譜例を参照のこと)</p> <p>(4) 三善晃 : 会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ)</p>
楽	楽	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
器 古	<p>◎古楽共通注意事項</p> <p>① ソロ及び伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ (a'=415, 8'8"4', FF-f")のみとする。</p> <p>② バロックヴァイオリン、リコーダーの受験生はチェンバロ伴奏者を同伴すること。</p> <p>③ 課題曲の演奏順は任意とする。すべての受験生は、受験曲目提出用紙に演奏順に作品名を書いて、出願とともに学生募集係に提出すること。</p> <p>④ 演奏する作品の楽譜すべてを、演奏順にコピーしA4判で一冊にまとめたものを4部作成し、出願とともに学生募集係に送付すること。当該楽譜は「古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。封筒裏面には志願者の氏名および受付番号を必ず記入すること。</p>	
	<p>チェンバロ (Cemb)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。)</p> <p>① G. Böhm : Suite, c-Moll (全楽章) ※Allemandeのみ前半の繰り返しを行うこと。</p> <p>② J. S. Bach : Das Wohltemperierte Klavier 第1巻より Praeludium und Fuga, cis-Moll (BWV 849)</p> <p>③ J. S. Bach : Das Wohltemperierte Klavier 第2巻より Praeludium und Fuga, F-Dur (BWV 880)</p> <p>④ J. Duphy : Les Grâces (繰り返しはなし)</p> <p>⑤ 次の2曲の D. Scarlatti のソナタより任意の1曲 (繰り返しはなし) K.104 (G-Dur), K.113 (A-Dur)</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>
	<p>バロックヴァイオリン (BVn)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。)</p> <p>① 17世紀イタリアのソナタ (例：D. Castello, B.Marini, G. P. Cimaらの作品) から1曲</p> <p>② F. Geminiani : The Art of playing on the violin (1751) の Composition から1曲</p> <p>③ F. Couperin : 任意のコンセールから2つの楽章</p> <p>④ G. F. Handel, A. Corelli, J-M. Leclair のソナタより任意の1曲 (全楽章)</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>
楽 楽	<p>リコーダー (Rec)</p>	<p>I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。)</p> <p>① Giovanni Bassano : Ricercate, passaggi et cadentie より任意の Ricercata を1曲 (リコーダー用に移調して演奏。使用リコーダー、ピッチは自由)</p> <p>② Jacques-Martin Hotteterre : Suite III (Oeuvre II 1715年) より任意の3つの楽章 (バロックタイプのトレブルを使用し変ロ長調に移調して演奏。ピッチ a' =415。)</p> <p>③ G.F.Handel : Sonata HWV 360, 362, 365, 367a, 369, 377 より任意の1曲 (全楽章。バロックタイプのトレブルを使用。ピッチは a'=415)</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
指揮		<p style="text-align: center;">第一回</p> <p>(1) 聴音 (a)単旋律及び複旋律(ピアノによる) (b)受験者に楽譜を与え、試験委員の行う演奏との相違点を指摘させ、聴覚的判断力、和声感覚の能力を試験する。</p> <p>(2) 新曲視唱</p> <p>(3) 課題曲 Ludwig van Beethoven : Symphonie Nr.5 op.67 全楽章の中より当日、部分を指定して指揮させる。(ピアノによる)</p>
		<p style="text-align: center;">第二回</p> <p>(1) 課題曲 Bartók Béla : Divertimento für Streichorchester 第1楽章の中より当日、部分を指定して指揮させる。(合奏による)</p> <p>(2) ピアノによる簡易なスコア初見視奏</p> <p>(3) 器楽試験 弦楽器(ハープを含む)、管打楽器又はピアノのいずれかにより任意の曲を演奏させる。</p> <p>(4) 音楽一般に関する試問 ※必要に応じて、ハーモニー、リズム等の適性検査を行うことがある。</p> <p>(注1) 第2回の(3)器楽試験においては、弦楽器及び管打楽器の種類選択は任意とし、楽譜視奏も差し支えないが、すべて無伴奏とする。</p> <p>(注2) 前号の器楽試験をピアノで受ける場合も、副科実技等の副科ピアノ試験は、別に受けなければならない。</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲																																				
邦 三 味 線 音 楽 ・ 邦 楽 囃 子	長 唄 三 味 線 常 磐 津 三 味 線 清 元 三 味 線 長 唄 常 磐 津 清 元 邦 楽 囃 子	<p>◎邦楽共通注意事項 受験者は、志願する部門に応じて下記の課題曲および自由曲を暗譜で演奏すること。 ただし、長唄・常磐津・清元の各志願者は、唄本（歌詞のみ）を用いてよい。 各専攻とも、二次試験に面接を課す。</p>																																				
		<p>◎長唄三味線・常磐津三味線・清元三味線・長唄・常磐津・清元・邦楽囃子共通 注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 三味線の試験においては、受験者には三味線のみを弾かせ、唄・浄瑠璃は係員が担当をする。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。 2. 邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。 3. 上記1.及び2.に関わらず、各自の選んだ自由曲について、本学部が伴奏者の同伴を必要と判断した場合は、その旨を2022年2月中旬までに試験時連絡先へ通知する。この場合、受験者は試験当日伴奏者を同伴すること。 4. 邦楽囃子の楽器は各自持参を原則とするが、長唄三味線は本学で用意した楽器を使用する。常磐津・清元三味線の楽器は各自持参すること。付属品（撥、指かけ、ひざゴム等）は各自持参すること。 5. 邦楽囃子のうち、笛の受験者は能管及び4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。 6. 唄、浄瑠璃の試験に関しては、扇子を持参すること。 7. 邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問・調絃を行うことがある。 8. 三味線音楽第2回Bにおいては、選択分野が三味線の場合、譜面使用不可（暗譜）とする。 9. 邦楽囃子第2回Cにおいては、譜面使用可とする。 <table border="1" data-bbox="606 952 1428 1411"> <thead> <tr> <th colspan="2">課題曲</th> </tr> <tr> <th>志願部門</th> <th>課 題 曲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長 唄 三 味 線</td> <td>「吾妻八景」(四世杵屋六三郎作曲)</td> </tr> <tr> <td>長 唄</td> <td>「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)</td> </tr> <tr> <td>常 磐 津 三 味 線</td> <td>「松島」(六世岸澤式佐作曲)</td> </tr> <tr> <td>常 磐 津</td> <td>「千代の友鶴」(五世岸澤式佐作曲)</td> </tr> <tr> <td>清 元 三 味 線</td> <td>「子守」(初世清元齋兵衛作曲)</td> </tr> <tr> <td>清 元</td> <td>「花がたみ」(三世清元齋兵衛作曲)</td> </tr> <tr> <td>邦楽囃子(小鼓)</td> <td>「鞍馬山」(二世杵屋勝三郎作曲)</td> </tr> <tr> <td>〃 (大鼓)</td> <td>「鶴亀」(十世杵屋六左衛門作曲)</td> </tr> <tr> <td>〃 (太鼓)</td> <td>「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)</td> </tr> <tr> <td>〃 (笛)</td> <td>「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)</td> </tr> </tbody> </table> <p>当日、この曲の中より試験官の指定する曲とその箇所を演奏すること。</p> <p>第二回</p> <p>A. 自由曲1曲 明治45年(西暦1912年)以前に作曲された曲で、第1回課題曲を除いたものを選ぶこと。時間を要する曲で、上・中・下に分かれているものは、それぞれ各1曲とする。</p> <p>B. 邦楽囃子以外の志願者は、志願部門の課題曲より、下記区分に従い1曲を選ぶこと。</p> <table border="1" data-bbox="630 1657 1189 1881"> <thead> <tr> <th>志願部門</th> <th>選 択 分 野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長 唄 三 味 線</td> <td>長 唄</td> </tr> <tr> <td>常 磐 津 三 味 線</td> <td>常 磐 津</td> </tr> <tr> <td>清 元 三 味 線</td> <td>清 元</td> </tr> <tr> <td>長 唄</td> <td>長 唄 三 味 線</td> </tr> <tr> <td>常 磐 津</td> <td>常 磐 津 三 味 線</td> </tr> <tr> <td>清 元</td> <td>清 元 三 味 線</td> </tr> </tbody> </table> <p>C. 邦楽囃子の志願者は、長唄三味線又は長唄のいずれかの分野を選択し、以下の2曲の中から1曲を選ぶこと。 「小鍛冶」(二世杵屋勝五郎作曲) 「末広狩」(十世杵屋六左衛門作曲)</p>	課題曲		志願部門	課 題 曲	長 唄 三 味 線	「吾妻八景」(四世杵屋六三郎作曲)	長 唄	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)	常 磐 津 三 味 線	「松島」(六世岸澤式佐作曲)	常 磐 津	「千代の友鶴」(五世岸澤式佐作曲)	清 元 三 味 線	「子守」(初世清元齋兵衛作曲)	清 元	「花がたみ」(三世清元齋兵衛作曲)	邦楽囃子(小鼓)	「鞍馬山」(二世杵屋勝三郎作曲)	〃 (大鼓)	「鶴亀」(十世杵屋六左衛門作曲)	〃 (太鼓)	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)	〃 (笛)	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)	志願部門	選 択 分 野	長 唄 三 味 線	長 唄	常 磐 津 三 味 線	常 磐 津	清 元 三 味 線	清 元	長 唄	長 唄 三 味 線	常 磐 津	常 磐 津 三 味 線
課題曲																																						
志願部門	課 題 曲																																					
長 唄 三 味 線	「吾妻八景」(四世杵屋六三郎作曲)																																					
長 唄	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)																																					
常 磐 津 三 味 線	「松島」(六世岸澤式佐作曲)																																					
常 磐 津	「千代の友鶴」(五世岸澤式佐作曲)																																					
清 元 三 味 線	「子守」(初世清元齋兵衛作曲)																																					
清 元	「花がたみ」(三世清元齋兵衛作曲)																																					
邦楽囃子(小鼓)	「鞍馬山」(二世杵屋勝三郎作曲)																																					
〃 (大鼓)	「鶴亀」(十世杵屋六左衛門作曲)																																					
〃 (太鼓)	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)																																					
〃 (笛)	「勝三郎 連獅子」(二世杵屋勝三郎作曲)																																					
志願部門	選 択 分 野																																					
長 唄 三 味 線	長 唄																																					
常 磐 津 三 味 線	常 磐 津																																					
清 元 三 味 線	清 元																																					
長 唄	長 唄 三 味 線																																					
常 磐 津	常 磐 津 三 味 線																																					
清 元	清 元 三 味 線																																					

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲	
邦 邦 楽 囃 子	現 代 邦 楽 囃 子	<p>◎現代邦楽囃子に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1・2回試験は譜面を使用してもよい。 2. 第1・2回試験の小鼓以外の打楽器は本学が準備した楽器を使用すること。 3. 第1・2回試験のパートや試験範囲は当日指定する。 4. 第1・2回試験の笛（竹笛、能管）、バチ類は各自準備すること。 5. 第1・2回試験ともに独奏で演奏すること。 6. 課題曲の譜面が入手困難な場合は、本学音楽学部学生募集係に連絡すること。 	
		第一回	笛・打楽器共通課題曲「颯踏」長澤勝俊作曲
		第二回	<ol style="list-style-type: none"> (1) 課題曲 笛：「人形風土記」長澤勝俊作曲 「邦楽器のためのインプロヴィゼーション」秋岸寛久作曲 打楽器：「ダンスコンセルタント 第一番〈四季〉」三木稔作曲 「子どものための組曲」長澤勝俊作曲 (2) 五線譜による初見視奏 (3) 口頭試問
楽	日 本 舞 踊	<p>◎日本舞踊に関する注意事項</p> <p>第1回・第2回ともに小道具は用いず、扇子及び手拭いをもって代用すること。 なお、着物・扇子・手拭いの種類は指定しない。</p>	
		第一回	<p>課題曲2曲 男形 長唄「五郎時致」（芳村伊十郎全集） 女形 長唄「藤娘」（芳村伊十郎全集）</p> <p>本学で用意した録音テープで、両曲、試験官の指定した箇所を踊る。</p> <p>(注) 長唄はコロムビア版、芳村伊十郎長唄全集による録音テープを使用する。</p>
		第二回	<ol style="list-style-type: none"> A. 自由曲1曲 課題曲を除いた曲を選ぶ。 当日録音テープを持参、提出し、試験官の指定する箇所を踊る。 B. 口頭試問 舞踊に関する基本的な試問を行う。 C. 試験官の用意した振付を三回見て覚え、その場で同じ振りを踊る。

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
邦楽	箏	<p>◎箏曲共通注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回・第2回試験とも暗譜で演奏すること。 2. 試験は、箏は立奏（椅子）で行う。三絃は立奏でも座奏でもよい。 3. 演奏箇所は試験の際に指示する。 4. 第2回試験（箏）は、曲名・作曲者名を曲目提出用紙に記入すること。また本手・替手・高音・低音・第1・第2などの区別のある曲は、どのパートで受験するか曲目提出用紙に記入すること。 5. 邦楽一般、及び箏曲について簡単な試問を行うことがある。 <p>◎山田流に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原則として箏・三絃ともに各自持参の楽器を使用するが、本学で用意した箏（テトロン糸18匁）・三絃（絹糸）の使用も可能である。なお、曲目提出用紙の所定欄に持参・借用の区別を記入すること。 <p>◎生田流試験に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 箏は本学で用意した楽器（テトロン糸）を使用する。 2. 三絃は原則として各自の楽器を使用するが、本学で用意した楽器（絹糸）を使用することもできる。（曲目提出用紙に、持参・借用の区別を記入すること。） 3. 調弦はチューナーなどを持ち込まず、試験官が提示する基音から行うこと。 4. 第一回、第二回試験とも課題曲・自由曲は暗譜で演奏する。 <p>◎現代箏曲試験に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第一回、第二回試験とも課題曲・自由曲は暗譜で演奏する。 2. 演奏は立奏（椅子）で行う。 3. 演奏範囲はそれぞれ、曲の冒頭から試験官が止めるまで演奏すること。任意の箇所を指定する場合もある。 4. 箏は本学で用意した楽器（テトロン糸）を使用する。 5. 山田流・生田流どちらで受験しても構わない。
	楽曲	<p style="text-align: right;">(次ページに続く)</p>

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲										
邦	箏	山田流	第一回 箏：課題曲1曲 下記の中から1曲を選択する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <table border="0"> <tr> <td>「江の島曲」</td> <td>山田検校</td> <td>作曲</td> </tr> <tr> <td>「四季の遊」</td> <td>三世 山登松齡</td> <td>作曲</td> </tr> <tr> <td>「岡康砧」</td> <td>岡安小三郎</td> <td>作曲</td> </tr> </table> </div>	「江の島曲」	山田検校	作曲	「四季の遊」	三世 山登松齡	作曲	「岡康砧」	岡安小三郎	作曲
		「江の島曲」	山田検校	作曲								
	「四季の遊」	三世 山登松齡	作曲									
	「岡康砧」	岡安小三郎	作曲									
	山田流	第二回 箏：自由曲1曲 第一回の受験曲を除いた古典・近代・現代曲 (第一回で受験した曲以外の課題曲2曲からも選択できる) ※別科を併願する場合は、別科課題曲を除く。 三絃：課題曲1曲 下記の中から1曲を選択する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <table border="0"> <tr> <td>「秋の七草」</td> <td>文部省音楽取調掛</td> <td>作曲</td> </tr> <tr> <td>「薄霞」</td> <td>文部省音楽取調掛</td> <td>作曲</td> </tr> </table> </div>	「秋の七草」	文部省音楽取調掛	作曲	「薄霞」	文部省音楽取調掛	作曲				
	「秋の七草」	文部省音楽取調掛	作曲									
「薄霞」	文部省音楽取調掛	作曲										
生田流	第一回 箏：課題曲1曲 下記の中から2曲を選択し、試験当日そのうちの1曲を受験者が 抽選により決定する。 「ながらの春」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は壱越(D) 「冬の曲(本手)」 (吉沢検校作曲) 一は壱越(D) 「茶音頭」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は双調(G) 「楓の花(本手)」 (松阪春栄作曲) 一は神仙(C)											
生田流	第二回 箏：自由曲1曲 1909(明治42)年以降に作曲、又は手付された曲。ただし、楽 章単位ではなく1曲単位で受験すること。 三絃：課題曲1曲 下記の中から1曲を選択する。 「都踊」 (宮城道雄作曲) Iの糸は壱越(D) 「末の契り」 (松浦検校作曲) Iの糸は壱越(D) 「八段」 (八橋検校作曲) Iの糸は壱越(D)											
現代箏曲	第一回 箏：課題曲2曲 下記4曲のうち2曲を選び、曲目提出用紙に記入し提出すること。 「祭の太鼓」 (宮城道雄作曲) 「鳥のように」 (沢井忠夫作曲) 「三つの断章」 (中能島欣一作曲) 「手事四綴」 (肥後一朗作曲)											
現代箏曲	第二回 (1) 箏：自由曲1曲 ・1950年以降作曲の箏独奏のための楽曲を選ぶこと。 ・各自が演奏する楽曲の楽譜を1部提出すること。 ・楽譜の書式は問わない(五線譜・縦譜・横譜等)。 ・楽譜は任意の封筒を使用して、書留速達扱いで出願と同時に、 他必要書類と別便で、郵送すること。送り先は必要書類送付先 と同所とする。 ・提出された楽譜は返却しない。 (2) 初見視奏 下記の調絃にした箏を本学で用意する。  (3) 口頭試問											

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲		
邦	尺八	<p>◎尺八に関する注意事項</p> <p>1. 尺八受験者は出願の際、琴古流・都山流のいずれかを選択し、出願すること。</p> <p>2. 全曲暗譜とする。</p>		
		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="534 416 598 589">第一回</td> <td data-bbox="598 416 1449 589"> <p>選択曲 1曲 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 琴古流「三谷菅垣」「雲井獅子」 都山流「木枯」「峰の月」(流祖中尾都山作曲) 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="534 589 598 1189">第二回</td> <td data-bbox="598 589 1449 1189"> <p>課題曲 1曲 尺八本曲(一尺八寸管を使用) 琴古流「一二三鉢返調」 都山流「朝風」(流祖中尾都山作曲)</p> <p>選択曲 2曲 ①外曲古典(一尺八寸管を使用) 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 「松上の鶴」「近江八景」「楫枕」「末の契」</p> <p>②外曲新曲(一尺六寸管を使用) 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 「赤壁賦」(中能島欣一作曲) 「春の訪れ」(宮城道雄作曲) 「春の海」(宮城道雄作曲) ※琴古流の「赤壁賦」は、邦楽社刊箏譜「赤壁賦」(中能島欣一著)に掲載の尺八譜による。</p> <p>ア. 五孔尺八(竹製)を用いること。 イ. 演奏箇所は、試験の際に指示する。 ウ. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 エ. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。</p> </td> </tr> </table>	第一回	<p>選択曲 1曲 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 琴古流「三谷菅垣」「雲井獅子」 都山流「木枯」「峰の月」(流祖中尾都山作曲) 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること。</p>
第一回	<p>選択曲 1曲 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 琴古流「三谷菅垣」「雲井獅子」 都山流「木枯」「峰の月」(流祖中尾都山作曲) 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること。</p>			
第二回	<p>課題曲 1曲 尺八本曲(一尺八寸管を使用) 琴古流「一二三鉢返調」 都山流「朝風」(流祖中尾都山作曲)</p> <p>選択曲 2曲 ①外曲古典(一尺八寸管を使用) 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 「松上の鶴」「近江八景」「楫枕」「末の契」</p> <p>②外曲新曲(一尺六寸管を使用) 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 「赤壁賦」(中能島欣一作曲) 「春の訪れ」(宮城道雄作曲) 「春の海」(宮城道雄作曲) ※琴古流の「赤壁賦」は、邦楽社刊箏譜「赤壁賦」(中能島欣一著)に掲載の尺八譜による。</p> <p>ア. 五孔尺八(竹製)を用いること。 イ. 演奏箇所は、試験の際に指示する。 ウ. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 エ. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。</p>			
楽	能 (囃子を除く)	<p>◎能楽に関する注意事項</p> <p>1. 第1回、第2回とも観世流、宝生流、下掛宝生流、和泉流のいずれかで受験すること。</p> <p>2. 能楽について簡単な試問を行うことがある。</p> <p>3. 受験者は黒紋付、袴、白足袋着用のこと。</p>		
		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="534 1357 598 1787">第一回</td> <td data-bbox="598 1357 1449 1787"> <p>(イ) シテ方(観世流及び宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「田村」キリ</p> <p>(ロ) ワキ方(下掛宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「春栄」</p> <p>(ハ) 狂言方(和泉流) (A) 謡曲 「風車」及び「柳の下」 (B) 小舞 「花の袖」</p> <p>ただし、謡曲の謡う部分については、当日指定する。</p> </td> </tr> </table>	第一回	<p>(イ) シテ方(観世流及び宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「田村」キリ</p> <p>(ロ) ワキ方(下掛宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「春栄」</p> <p>(ハ) 狂言方(和泉流) (A) 謡曲 「風車」及び「柳の下」 (B) 小舞 「花の袖」</p> <p>ただし、謡曲の謡う部分については、当日指定する。</p>
		第一回	<p>(イ) シテ方(観世流及び宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「田村」キリ</p> <p>(ロ) ワキ方(下掛宝生流) (A) 謡曲 「紅葉狩」サシより中入まで、及び「鶺鴒」待謡より終わりまで (B) 仕舞 「春栄」</p> <p>(ハ) 狂言方(和泉流) (A) 謡曲 「風車」及び「柳の下」 (B) 小舞 「花の袖」</p> <p>ただし、謡曲の謡う部分については、当日指定する。</p>	
第二回	<p>謡曲及び仕舞または小舞自由曲1曲ずつ(ただし、第1回および別科の課題曲を除く。) 謡曲はツヨ吟とヨワ吟のある曲を選ぶこと。 謡曲の謡う部分については、当日指定する。</p>			

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲
邦	能楽囃子	<p>◎能楽囃子に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 下記の曲を一噌流, 幸流, 高安流, 観世流(太鼓)のいずれかで受験すること。 2. 笛, 小鼓, 太鼓の試験に際しては, 各自持参の楽器を使用してもよい。ただし, 太鼓については, 楽器を使用しない。 3. 地謡の流儀は観世流, または宝生流のいずれかを選ぶこと。 4. 能楽について簡単な試問を行うことがある。 5. 受験者は黒紋付, 袴, 白足袋着用のこと。
		<p>第一回</p> <p>囃子 下記(イ)～(ニ)より受験する楽器及び課題曲をひとつ選択。</p> <p>(イ) 笛 (一噌流) 「早舞」三段 (ロ) 小鼓 (幸流) 「天鼓」キリ (ハ) 太鼓 (高安流) 「屋島」キリ (ニ) 太鼓 (観世流) 「山姥」キリ</p>
		<p>第二回</p> <p>囃子 自由曲(ただし, 第1回及び別科の課題曲を除く。) 謡曲 下記の中から1曲を自由選択。(ただし観世流, または宝生流のいずれかで受験すること。)</p> <p>(イ) 「紅葉狩」サシより中入まで (ロ) 「鶴飼」待謡より終わりまで (ハ) 「竹生島」クセ上げより「下界の龍神現れたり」まで</p>
楽	雅楽 笙 篳篥 龍笛	<p>◎雅楽に関する注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雅楽専攻で受験できる楽器は「笙」, 「篳篥」, 「龍笛」各専攻の竹製楽器とする。 2. 実技試験は, 管絃吹で行う。
		<p>第一回</p> <p>(A) 下記の3曲より1曲を指定し, 暗譜による「唱歌テスト」を行う。 (B) 下記の3曲より1曲を指定し, 暗譜による「音取」及び「実技テスト」を行う。</p> <p>課題曲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平調「陪臚」 2. 黄鐘調「拾翠楽」 3. 盤渉調「越殿楽」
		<p>第二回</p> <p>(C) 下記の課題曲により第1回試験の(A)及び(B)の試験を再度行う。 (D) 「舞」の為のリズムテスト (E) 「雅楽」についての試問をする。</p> <p>課題曲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 壹越調「新羅陵王急」 2. 双調「胡飲酒破」 3. 太食調「抜頭」

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲	
楽 理		第一回	1. 国語（試験時間：2時間） 国語総合・現代文B・古典B 2. 外国語（試験時間：2時間） 英語（コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ）、ドイツ語、フランス語のうち1科目 を選択する。
		第二回	小論文（含、口述試問。試験時間：筆記2時間） 音楽学の学習に必要な基礎的能力を問う課題文。（課題は当日出題 する。）
音 楽 環 境 創 造		第一回	学力検査〔音楽（音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）〕（60分） ※高等学校で使用されている音楽の教科書「音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」程度を 出題範囲とする。
		第二回	小論文および面接（表現を含む） ●小論文（120分） ●面接（20分）表現を含む。 ○表現 下記の1～3のいずれかを選択し（受験票に記入、複数選択も可）、 制限時間内（5分）で行うこと。 1. 演奏（コンピュータ・電子楽器等も可） ※表現能力・創作能力などをアピールしたい場合 2. パフォーマンス（演奏以外の表現。複合的表現を含む。） ※演奏以外の表現力や感性をアピールしたい場合 3. プレゼンテーション（パネルやチャート図等によるプランの提 示、楽譜等の作品、研究計画書等） ※企画・アイデアをアピールしたい場合 （表現の注意事項） ・1人でできるもの（伴奏者・共演者は認めない。） ・セッティングを含めて5分以内で終了すること。 ・グランドピアノは用意されている。それ以外の楽器は各自持参 すること。 ・A V機器（CD/DVD/Blu-ray, HDMI ケーブル、ステレオミ ニフォンプラグのケーブル）は用意されている。 ・コンピュータを持参して使用することは可能だが、機器につい てのサポートは一切与えられないので、全て自己責任にて用意 すること。 ・「2. パフォーマンス」を行う試験場の床は一般的なフローリ ングである。床を傷つけないような演目、靴、衣装であること。 （パフォーマンスで使用できる広さは、幅約8m×奥行き約6 m。天井の高さは約2m30cm。）
		●音楽環境創造科受験者の志望理由書の提出について 音楽環境創造科志願者は、志望理由書（800字以内。本学所定の用紙に 手書きで記入のこと）を出願時に、他必要書類とともに提出すること。志 望理由書は面接時の参考とする。	

イ. 音楽に関する基礎能力検査及び副科実技等

① 音楽に関する基礎能力検査

1. 筆記試験

a) 聴音書き取り (試験時間: 約 30 分)

作曲科, 声楽科, 器楽科及び楽理科志願者に課す。(52 ページの例題程度)

単旋律 (1 題)

複旋律 (1 題)

四声体和声 (1 題)

b) 楽典 (試験時間 1 時間)

音楽環境創造科を除く全科の志願者に課す。和声・楽式等作曲法の内容は含まない。

2. 実技試験

a) 新曲視唱 (1 題)

歌詞を伴わない初見唱。作曲科, 声楽科, 器楽科及び楽理科志願者に課す。

(53 ページの例題程度)

b) リズム課題 (1 題)

作曲科, 声楽科, 器楽科及び楽理科志願者に課す。(53 ページの例題程度)

聴音書き取り例題

単旋律

♩ = 52

A single melody exercise in 6/8 time, marked with a tempo of ♩ = 52. The piece consists of three staves of music. The first staff begins with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody is composed of eighth and sixteenth notes, with some slurs and accents. The second and third staves continue the melody, with the third staff ending with a double bar line.

複旋律

♩ = 54

A complex melody exercise in 2/4 time, marked with a tempo of ♩ = 54. The piece is written for two staves, with a key signature of two flats (Bb, Eb). The first staff uses a treble clef and the second a bass clef. The music features a variety of rhythmic patterns, including eighth and sixteenth notes, and rests. There are several slurs and accents throughout. The second staff includes triplets and sextuplets, with some notes marked with a 'b' (flat) and a 'tr' (trill). The piece concludes with a double bar line.

四声体和声

♩ = 52

A four-part harmony exercise in C major, marked with a tempo of ♩ = 52. The piece is written for two staves, with a treble clef on the top and a bass clef on the bottom. The key signature is one sharp (F#). The music consists of a series of chords, primarily triads and dyads, with some dyads marked with a 'b' (flat). The piece concludes with a double bar line.

新曲視唱例題

●作曲科，器楽科，楽理科志願者

♩ = 60

●声楽科志願者

♩ = 48

リズム課題例題

手で拍を振りながら，下記のリズムを音程をつけずに音名で読みなさい。

●作曲科，器楽科，楽理科志願者

♩ = 60 ca.

●声楽科志願者

♩ = 60 ca.

2. ピアノ以外の副科実技（楽理科のみ）

受験者区分	試験内容及び課題曲等
<p>楽理科は、ピアノ以外の右記の楽器等により副科実技を受験することができる。</p>	<p>オルガン・チェンバロ・弦楽器・管楽器・打楽器・邦楽器（三味線・箏・尺八・邦楽囃子・能楽囃子・雅楽） ただし、弦楽器・管楽器で受験する場合に使用できる楽器は、器楽科弦楽専攻・管楽専攻の志願者が出願できる楽器に限る。 打楽器で受験する場合に使用できる楽器は、小太鼓（持ち込み可）またはマリмбаに限る。 試験曲は、ヴァイオリン及び邦楽器の場合を除き自由曲である。</p> <p>ヴァイオリン課題曲 W.A.Mozart：Violin Concerto No.3 in G major, K.216 より 第1楽章, Allegro （注） Cadenza を除く。暗譜とし、伴奏なし。</p> <p>邦楽課題曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三味線 「小鍛冶」（二世杵屋勝五郎作曲） ・ 箏曲（山田流） 「秋の七草」（音楽取調掛作） ・ 箏曲（生田流） 「春の曲」（吉沢検校作曲）一＝老越(D) ・ 尺八（琴古流・都山流）共通 「六段の調」（八橋検校作曲） ・ 邦楽囃子 「五郎時致」（三升屋二三治作詞，十世杵屋六左衛門作曲） （注） 四拍子の中より一つを選択する。 ・ 能楽囃子 笛 「中ノ舞」 小鼓「羽衣クセ」 大鼓「羽衣クセ」 太鼓「鶴亀キリ」 ・ 雅楽 平調「越殿楽」 （注） 管楽器の中より一つを選択する。 <p>※上記いずれかの楽器で受験した場合は、副科ピアノを受験する必要はない。</p>

3. ピアノ新曲

受験者区分	試験内容及び課題曲等
<p>作曲科</p>	<p>初見奏</p>

4. 和声

受験者 区分	試 験 内 容 及 び 課 題 曲 等
指 揮 科 ・ 楽 理 科	<p>指揮科及び楽理科志願者のみに課す。 試験時間は1時間30分。 与えられた数字付低音によるバス及びソプラノ声部に、それぞれ四声体の和声を作る。 指揮科課題，楽理科課題とも三和音の基本形と転回形のみ。転調は含まない。</p>
	<p>【例題】</p> <p>1) 次の数字付き低音によるバス課題を四声体で実施しなさい。</p>  <p>2) 次のソプラノ課題を四声体で実施し，可能であればバス声部の下に和音数字（5,6 など）を書きなさい。</p> 


別科

試験内容及び試験曲

別科入学者選抜試験は、本表「試験内容及び課題曲」に記載された内容についてのみ行う。

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲
声 楽	ソプラノ(S) アルト(A) (メゾソプラノを含む) テノール(T) バス(B) (バリトンを含む)	自由曲1曲を暗譜で演奏する。 (注) 1. 歌曲(および一般に歌曲として扱われている古典アリアを含む)の場合、いずれの調で演奏してもよいが、オペラおよびオラトリオ等のアリアは原調で演奏すること(ただし、オペラのアリアで慣習的に移調が認められている場合を除く)。 2. 演奏時間は4分以内とする。試験官の指示により演奏の途中で切ることがあるが、志願者の評価に不利になるものではない。 3. 伴奏楽器はピアノとし、楽器および伴奏者は本学で用意する。志願者が試験時に伴奏者を同伴することは認めない。 4. 志願者は、ピアノ伴奏用の楽譜を出願時に提出すること。楽譜提出後の曲目、調性等の変更は一切認めない。楽譜の提出方法については、2022年12月上旬に発行する学生募集要項に記載する。
	ピ ア ノ (Pf)	次の11曲から1曲を選択し、その第1楽章と終楽章を用意すること。ただし、第21番を選択した者は、第1楽章とロンドを、また第30番を選択した者は、第1楽章と第2楽章を用意すること。 Beethoven: ピアノソナタ ・第2番イ長調作品2-2 ・第3番ハ長調作品2-3 ・第4番変ホ長調作品7 ・第6番ヘ長調作品10-2 ・第7番ニ長調作品10-3 ・第11番変ロ長調作品22 ・第16番ト長調作品31-1 ・第18番変ホ長調作品31-3 ・第21番ハ長調作品53「ワルトシュタイン」 ・第26番変ホ長調作品81a ・第30番ホ長調作品109 I) 演奏はすべて暗譜とする。 II) 繰り返しは省略すること。 III) 当日、時間の都合により一部を省略させることがある。
器 楽	オルガン (Org)	自由曲 (注) 実技試験の行われるオルガンの仕様については、本冊子学部オルガン科の頁を参照すること。当日、時間の都合により一部省略させることがある。全ての受験者に面接を課す。
	ヴィオラ (Va)	C. Stamitz: Viola concerto No.1 ニ長調(D-dur) より 第1楽章 Allegro (カデンツァ付き) ※Henle版を使用し、カデンツァはCadenza Bを演奏すること。 (注) 暗譜とし、伴奏無しとする。場合により一部を省略させることがある。
	チェロ (Vc)	次のうち、任意の1曲を選んで演奏すること。 (A) J. Haydn: Concerto C major 第1楽章(楽譜は何版を使ってもよい)。 Cadenzaは除く。 (B) C. Saint-Saëns: Concerto A minor Op.33 第1楽章 (C) E. Lalo: Concerto D minor 第1楽章(初めから117小節Lentoまで) (注) 暗譜とし、伴奏無しとする。場合により一部を省略させることがある。
	コントラバス (Cb)	自由曲 (注) 暗譜とし、伴奏無しとする。場合により一部を省略させることがある。
	ハープ (Hp)	自由曲 (注) 暗譜とする。場合により一部を省略させることがある。

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲
器 木	フルート (Fl)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 学部第一回試験内容に準ずる。 (2) Mozart : Konzert für Flöte und Orchester K. 314 より第1楽章, 第2楽章</p>
	オーボエ (Ob)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。 ※音階課題は課さない。</p> <p>(1) F. Gillet : Studies for the advanced teaching of the oboe no. 21 演奏箇所は当日指定する。テンポは♩ = 120 以上とする。 (2) W. A. Mozart : Konzert für Oboe und Orchester C-Dur KV 314 (Bärenreiter 版) 第2楽章, 第3楽章 暗譜のこと。演奏箇所は当日指定する。 (3) オーケストラ・スタディ 《Orchester Probespiel by Miller / Liebermann》(Peters 版) より G. Rossini : Die Seidene Leiter B.Smetana : Die Verkaufte Braut, Overture & 1. Akt, 4. Szene</p>
	クラリネット (Cl)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。 ※すべての課題をA管のソプラノクラリネットで演奏すること。</p> <p>(1) 音階 および分散和音(主和音) 学部第一回試験に準ずる。 (2) W. A. Mozart : Konzert A-dur Kv. 622 第1楽章, 第2楽章</p>
	ファゴット (Fg)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 学部第一回試験内容に準ずる。 (2) C. M. v. Weber : Concerto for Bassoon 第2, 3楽章(何版にても可)</p>
楽 管	サクソフォーン (Sx)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 学部第一回試験内容に準ずる。 (2) J. Ibert : Concertino da Camera (Leduc 版)</p>

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲
器 金	ホルン (Hr)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 学部第一回試験内容に準ずる。 (2) 課題曲 W. A. Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.2 Es-Dur K.417 より 第1楽章 (版指定なし) 演奏箇所は当日指定する。</p>
	トランペット (Tp)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。 ※出版社の指定のないものは、何版にても可。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) Arban : Complete Grand Method (全音楽譜出版社版) より 長音階 P.65~P.80, 短音階 P.81 第70~81番 上記の中より当日指定する。 (注) B♭ Trumpet を使用のこと。 長音階第16, 22, 28, 34, 41, 50, 56, 62, 68, 69番は除く。 (2) H. Tomasi : Concerto 全楽章より当日指定する。 (注) C Trumpet を使用のこと。</p>
楽 管	テナー・トロンボーン (Ttb)	<p>※試験はすべて無伴奏とする。 ※(3)(4)は、各自の楽譜を使用すること。 ※時間の都合により、演奏を途中でカットする場合がある。</p> <p>(1) 音階 学部第一回試験内容に準ずる。 (2) E.Remington : Warm-Up Exercises for Trombone (Accura Music 版) より 下記の部分</p>  <p>第7ポジションまで演奏すること。 (注) 暗譜とする。</p> <p>(3) Brad Edwards (著, 出版) : 「Lip Slur Melodies」 A melodic approach to building tone and technique with lip slurs より P.8 の No.1.15, 1.16</p> <p>(4) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) No.19, 20, 25, 27, 33, 34, 37, 41, 46, 49</p> <p>(注) (3)(4)の演奏箇所は当日指定する。リピートは不要。</p>

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲
器 古 楽 楽		<p>◎古楽共通注意事項</p> <p>① ソロおよび伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ (a'=415, 8'8"4, FF-f") のみとする。</p> <p>② 実技試験の行われるオルガンの仕様については、学部オルガン科の項を参照すること。</p> <p>③ フォルテピアノは、18世紀末ウィーン式モデル (a' =430, 音域 FF-g''') である。</p> <p>④ 必要な伴奏者 (チェンバロ) は同伴すること。ただし、オブリガートパートが必要な場合は、すべてチェンバロで代用すること。</p> <p>⑤ すべての受験者は、曲目提出用紙に演奏する作品名を書いて、出願とともに提出すること。</p> <p>⑥ すべての受験者に面接を課す。なお、別科バロック声楽、別科バロックヴァイオリン、別科バロックチェロ、別科リコーダーの各専攻の面接においては、数字付き低音の基礎的知識の有無を問う試問がなされることがある。</p> <p>⑦ 別科チェンバロ、別科バロックオルガン、別科フォルテピアノの各専攻には、通奏低音課題 (簡易な数字付き低音課題が当日与えられ、5分間の予見ののちにそれぞれの専攻楽器で実施する) が課される。</p> <p>⑧ 各自の演奏する楽譜をコピーしA4判で一冊にまとめたものを4部作成し、出願とともに学生募集係に送付すること。</p> <p>当該楽譜は「別科古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。封筒裏面には志願者の氏名および受付番号を必ず記入すること。</p>
	バロック声楽 (BVo)	<p>I. 5分程度の自由曲</p> <p>II. 初見視唱課題 初見視唱課題は、ルネサンスからC.モンテヴェルディまでの時代の声楽ポリフォニー作品及びJ.S.Bach, G.F.Handelの声楽パートの一部を改変したものから出題される。</p>
	バロックヴァイオリン (BVn)	<p>下のア)とイ)のどちらかを選んで演奏する。</p> <p>ア) A.Corelli: ヴァイオリンソナタ集 op.5 のソナタ第1番から第6番までの中から1曲選択し、当日指定された楽章を演奏する。</p> <p>イ) J.S.Bach: BWV1001~1006の無伴奏曲の中から1曲を選択し、任意の2つの楽章を演奏する。</p>
	バロックチェロ (BVc)	<p>J.S. Bach: Suite a violoncello solo senza basso no.2, BWV 1008 から、Prélude, Allemande, Courante (繰り返しは省略のこと)</p>
	リコーダー (Rec)	<p>5分程度の自由曲</p>
	チェンバロ (Cemb)	<p>I. J.S. Bach: Die sechs Englischen Suiten (BWV 806-811) から任意の組曲1曲を選び、その中からPrélude, Courante, Sarabandeを演奏する (繰り返しは省略)。なおCouranteとSarabandeが複数ある組曲の場合は、Courante, Sarabandeそれぞれ1つ分を任意に選んで演奏すればよい。</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を演奏する。(予見5分)</p>
	バロックオルガン (BOrg)	<p>I. 次の2作品から任意の1曲を演奏する</p> <p>イ) J.S.Bach: Präludium und Fuge in a, BWV 543</p> <p>ロ) J.S.Bach: Präludium und Fuge in G, BWV 541</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を演奏する。(予見5分)</p>
フォルテピアノ (FP)	<p>I. W.A.MozartもしくはJ.Haydnのクラヴィエーア作品から5分程度の作品または楽章</p> <p>II. 当日課する通奏低音課題を演奏する。(予見5分)</p>	

専修 声種・楽器等 試験内容及び試験曲

◎邦楽共通注意事項

受験者は、志願する専修部門に応じて下記の課題曲を暗譜で演奏すること。ただし、長唄・常磐津・清元の志願者は唄本（歌詞のみ）を用いてよい。

●専修部門課題曲

専修部門	課題曲
長唄三味線	「竹生島」(十一世杵屋六左衛門作曲)
常磐津三味線	「三保の松」(六世岸澤式佐作曲)
清元三味線	「傀儡師」(初世清元斎兵衛作曲)
長唄	「竹生島」(十一世杵屋六左衛門作曲)
常磐津	「三保の松」(六世岸澤式佐作曲)
清元	「傀儡師」(初世清元斎兵衛作曲)
邦楽囃子 (小鼓)	「新曲浦島」(十三世杵屋六左衛門作曲) 「月の巻」(四世杵屋六三郎作曲)
〃 (大鼓)	
〃 (太鼓)	
〃 (笛)	

●専修部門以外の実技試験は、下記区分に従い自由曲1曲を選び、曲目提出用紙の所定欄に記入すること。

専修部門	専修部門以外の実技試験
長唄三味線	長唄 (自由曲)
常磐津三味線	常磐津 (自由曲)
清元三味線	清元 (自由曲)
長唄	長唄三味線 (自由曲)
常磐津	常磐津三味線 (自由曲)
清元	清元三味線 (自由曲)
邦楽囃子 (小鼓)	長唄三味線または長唄 (自由曲)
〃 (大鼓)	
〃 (太鼓)	
〃 (笛)	

(注)

1. 三味線の試験においては、受験者には三味線のみを弾かせ、唄・浄瑠璃は係員が担当をする。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。
2. 邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。
3. 邦楽囃子の楽器は各自持参を原則とし、笛の受験者は能管及び4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。
4. 長唄三味線は本学で用意した楽器を使用するが、常磐津・清元三味線の楽器は各自持参すること。
付属品（撥、指かけ、ひざゴム等）は各自持参すること。
5. 三味線音楽において、専修部門以外の実技試験が三味線の場合、譜面使用不可（暗譜）とする。
6. 邦楽囃子において、専修部門以外の実技試験の譜面は使用可とする。
7. 邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問・調絃を行うことがある。

邦

長 唄 三 味 線
常 磐 津 三 味 線
清 元 三 味 線
長 唄
常 磐 津
清 元
邦楽囃子（笛含む）

楽

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲							
邦楽	<p>◎箏曲共通注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 暗譜で演奏すること。 試験は、箏は立奏（椅子）で行う。三絃は立奏でも座奏でもよい。 演奏箇所は試験の際に指示する。 								
	<p>箏 山田流</p>	<p>下記の〈古典〉・〈現代〉より1曲を選択する。</p> <table border="1" data-bbox="544 439 1409 622"> <tr> <td data-bbox="544 439 611 528">古典</td> <td data-bbox="611 439 1409 528"> 「白の聲」 三世山登松齡作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい </td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 528 611 622">現代</td> <td data-bbox="611 528 1409 622"> 「野路の梅」 中能島欣一作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい </td> </tr> </table> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 古典による出願者は、箏・三絃のいずれかを選択し、曲目提出用紙に記入すること。 原則として箏・三絃ともに各自持参の楽器を使用するが、本学で用意した箏（テトロン糸18匁）・三絃（絹糸）の使用も可能である。なお、曲目提出用紙に持参・借用の区別を記入すること。 	古典	「白の聲」 三世山登松齡作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい	現代	「野路の梅」 中能島欣一作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい			
	古典	「白の聲」 三世山登松齡作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい							
現代	「野路の梅」 中能島欣一作曲 ※箏・三絃のどちらの楽器を用いてもよい								
<p>曲 生田流</p>	<p>※下記の中から、箏・三絃各1曲を選択する。 ただし、学部と併願する場合は、学部への出願曲と重複しないこと。</p> <table border="1" data-bbox="544 922 1409 1189"> <tr> <td data-bbox="544 922 611 1072">箏</td> <td data-bbox="611 922 1409 1072"> 「ながらの春」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は壱越(D) 「冬の曲(本手)」(吉沢検校作曲) 一は壱越(D) 「茶音頭」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は双調(G) 「楓の花(本手)」(松阪春栄作曲) 一は神仙(C) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="544 1072 611 1189">三絃</td> <td data-bbox="611 1072 1409 1189"> 「都踊」 (宮城道雄作曲) Iの糸は壱越(D) 「末の契り」 (松浦検校作曲) Iの糸は壱越(D) 「八段」 (八橋検校作曲) Iの糸は壱越(D) </td> </tr> </table> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 箏は本学で用意した楽器（テトロン糸）を使用する。 三絃は原則として各自の楽器を使用するが、本学で用意した楽器（絹糸）を使用することもできる。（曲目提出用紙に、持参・借用の区別を記入すること） 調弦はチューナー等を持ち込まず、試験官が提示する基音から行うこと。 課題曲は暗譜で演奏する。 	箏	「ながらの春」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は壱越(D) 「冬の曲(本手)」(吉沢検校作曲) 一は壱越(D) 「茶音頭」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は双調(G) 「楓の花(本手)」(松阪春栄作曲) 一は神仙(C)	三絃	「都踊」 (宮城道雄作曲) Iの糸は壱越(D) 「末の契り」 (松浦検校作曲) Iの糸は壱越(D) 「八段」 (八橋検校作曲) Iの糸は壱越(D)				
箏	「ながらの春」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は壱越(D) 「冬の曲(本手)」(吉沢検校作曲) 一は壱越(D) 「茶音頭」 (菊岡検校作曲・八重崎検校箏手付) 一は双調(G) 「楓の花(本手)」(松阪春栄作曲) 一は神仙(C)								
三絃	「都踊」 (宮城道雄作曲) Iの糸は壱越(D) 「末の契り」 (松浦検校作曲) Iの糸は壱越(D) 「八段」 (八橋検校作曲) Iの糸は壱越(D)								
<p>尺 八</p>	<p>(1) 課題曲1曲</p> <table data-bbox="584 1491 959 1637"> <tr> <td>「夕顔」</td> <td>菊岡検校作曲</td> </tr> <tr> <td>「末の契」</td> <td>松浦検校作曲</td> </tr> <tr> <td>「都の春」</td> <td>山勢松韻作曲</td> </tr> <tr> <td>「近江八景」</td> <td>山登萬和作曲</td> </tr> </table> <p>以上の4曲のうち1曲を選択。</p> <p>(2) 本曲1曲（曲目は自由）</p> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 流派は問わない。 全曲暗譜とする。 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること。 演奏箇所は、試験の際に指示する。 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。 	「夕顔」	菊岡検校作曲	「末の契」	松浦検校作曲	「都の春」	山勢松韻作曲	「近江八景」	山登萬和作曲
「夕顔」	菊岡検校作曲								
「末の契」	松浦検校作曲								
「都の春」	山勢松韻作曲								
「近江八景」	山登萬和作曲								

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲
邦	能 楽 (囃子を除く)	<p>シテ方（観世流及び宝生流） 謡曲 「網之段」（桜川） 仕舞 「春日龍神」</p> <p>ワキ方（下掛宝生流） 謡曲 「網之段」（桜川） 仕舞 「蟻通」</p> <p>狂言方（和泉流） 謡曲 「大原木」 小舞 「海道下り」</p> <p>(注) 1. 受験者は黒紋付，袴，白足袋着用のこと。</p>
	能 楽 囃 子	<p>下記の中から1つを自由選択。</p> <p>(イ) 笛 (一噌流) 「男舞」(三段) (ロ) 小鼓 (幸流) 「経正(政)」キリ (ハ) 大鼓 (高安流) 「敦盛」クセ (ニ) 太鼓 (観世流) 「杜若」キリ(昔男のヨリ)</p> <p>(注) 1. 笛以外の楽器は，地謡の流儀（観世流，宝生流のいずれか）を曲目提出用紙に記入すること。 2. 受験者は黒紋付，袴，白足袋着用のこと。</p>